

『多発性骨髄腫の発現解析と骨髄腫モデルマウスを用いた治療開発（承認番号 25-26-0812）』（研究代表者 二見 宗孔 助教） にご協力いただいている患者様へ

平素は当院血液腫瘍内科の研究について、格別のご理解をいただき厚く御礼申し上げます。皆様の多大なるご理解のもと、私どもは 多発性骨髄腫の研究を行っております。研究をさらに発展させるため、『再発難治多発性骨髄腫患者に対する新規治療の開発』を進めることにいたしました。この研究では、以前より附属病院血液腫瘍内科、先端医療研究センター 分子療法分野にて施行しております『多発性骨髄腫の発現解析と骨髄腫モデルマウスを用いた治療開発（承認番号 25-26-0812）』（研究代表者 二見 宗孔 助教）にご提供いただいた試料及び診療情報も使用させていただきたいと考えております。以下、概要を説明させていただきます。

《研究の目的と方法》

多発性骨髄腫は、自家末梢血幹細胞移植やサリドマイド・ボルテゾミブ・レナリドミドなどの新規治療薬が導入され治療反応・生存率が改善していますが、依然として多くの再発・難治症例がみられます。これらの難治化の克服に対して、我々は分子標的薬(ダラツムマブやエロツズマブ)、ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬(HDAC阻害薬)、PI3K/Akt経路の阻害薬であるAkt阻害薬、mTOR阻害薬などの新規薬剤に着目しております。

我々はまず、実験用の培養細胞(細胞株)を用いて薬剤効果や細胞の変化(遺伝子やタンパク質など)を確認しますが、その次のステップとして、実際のヒトの細胞を使用してデータを集めようと考えております。

実際の多発性骨髄腫の患者様の細胞を使わせていただくことによって、新規薬剤の効果や作用機序の解明につながることを期待でき、新規薬剤が実臨床にて使われるようになることも期待されます。

対象となる患者様にご協力いただきたいこと

上記『多発性骨髄腫の発現解析と骨髄腫モデルマウスを用いた治療開発（承認番号 25-26-0812）』にご提供いただきました患者様（既に亡くなられた方々も含みます）の、試料(特に血液細胞)及び診療情報を本研究にも利用させていただきたいと思っております。

個人情報の保護

試料及び診療情報は、上記の研究のもとで付された符号により引き続き厳重に管理し、研究に用います。

研究参加による利益・不利益

利益・・・

本研究にご協力いただくことで、患者様に直接的に利益となるようなことはありませんが、多発性骨髄腫の研究の進展につながることを期待できます。

不利益・・・

保存されている試料及び診療情報のみを用いるためご負担をおかけすることはありません。

研究協力の辞退について

本研究に試料及び診療情報が使用されることを辞退されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。辞退の連絡を受けた場合、患者様の試料及び診療情報を本研究の対象から取り除きます。辞退のお申し出により、不利益が患者様に生じることはありませんのでご安心ください。但し、辞退のご連絡を受けた時に、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は結果を廃棄できない場合もありますことをご了承ください。

研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報厳重に守られますので、第三者に患者様の個人情報が明らかになることはありません。本研究は、本研究所の倫理審査委員会の承認を得ていることを申し添えます。本研究についてのご質問、あるいは、本研究への試料及び診療情報の使用について辞退されたい場合などは、下記の窓口までお問い合わせ下さい。また、本研究について詳しくお知りになりたい場合には、研究計画書等の資料をご覧いただけますので（但し、他の対象者等の個人情報や知的財産の保護等に支障がない範囲内で）、下記の窓口までご連絡ください。 何とぞよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ窓口

東京大学医科学研究所 附属病院血液腫瘍内科

今井 陽一(いまい よういち)

〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1

電話：03-3443-8111 Fax：03-5449-5604

E-mail: imaiyo-tky@umin.ac.jp